

令和 5 年 度

幼稚園教員資格認定試験

幼稚園教育の実践に関する科目

注 意 事 項

受験者は、下記の注意事項に従うこと。それ以外の注意事項は全て試験監督者の指示によること。

1. 試験監督者の「始め。」の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
2. 受験番号及び氏名を解答用紙の指定された欄に記入してください。なお、受験番号及び氏名は2枚とも必ず記入してください。
3. 解答は、全て所定の欄に記入してください。指定された欄以外に記入されたものについては、採点対象となりません。
4. この試験の解答時間は、「始め。」の合図があってから 90分です。
5. 試験が終わるまで退室できません。
6. 試験監督者の「やめ。」の合図があったら、直ちにやめてください。
7. 下書きには問題冊子の余白を使用してください。
8. 試験終了後、問題冊子を必ず持ち帰ってください。

問 1 幼稚園における教育活動の向上を図るには、指導計画の作成、実践、幼児理解に基づく評価、その評価を生かした指導の改善という好循環が必要である。「幼稚園教育要領」(平成 29 年文部科学省告示第 62 号)には、幼児一人一人の発達に基づく評価の実施に当たって配慮することが示されている。次の①～③の視点から、この配慮事項について説明しなさい。なお、記述に当たっては下の語句を参考にしてよいが、使用は必須ではない。

- ① 指導の過程を振り返りながら幼児の理解を進めるには
- ② 評価の妥当性や信頼性が高められるようにするには
- ③ 次年度又は小学校等にその内容が適切に引き継がれるようにするには

【語句(使用する順番及び回数は問わない)】

「指導の改善」 「評定」 「記録」
「園内研修」 「組織的」 「小学校との接続」

問 2 以下は、ある幼稚園の5歳児クラス(男児12名、女児12名)の9月第2週の指導計画(週案)、
 幼児がリレー遊びをする姿の記録、及びその記録を通して今後の指導の改善を図ろうとする様子
 を示したものである。このリレー遊びをする幼児の姿を基に、指導計画の改善として考えられる
 点について、次ページの(1)~(4)の問いに答えなさい。

< 週案 > (5歳児 9月第2週)

幼児の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・友達とリレーや鬼遊びなど、体を動かして遊んでいるが、人数が増えたとルールが曖昧になり、自分たちで進められず、つまらなくなってしまう姿もある。 ・リーダーとなって進められる幼児がない。
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・友達とのつながりを楽しみながら、考えを出し合って遊びを進めていく。 ・進んで運動遊びに取り組み、繰り返し試したり挑戦したりする。 ・①<u>運動会の競技や係の仕事を楽しみにする。</u>
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いを話したり、友達の考えを聞いたりして遊びを進めていく。 ・学年の友達と運動会に向けての活動に取り組む中で、互いに親しみを感じる。 ・鉄棒や縄跳び、竹馬に挑戦する。 ・学年の友達と一緒にリレーやタイヤひきに取り組みながら自分の力を発揮していく。
環境の構成・教師の援助	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会に向けて、鉄棒や縄跳び、竹馬、リレーなどいろいろな運動遊びを経験していく中で、自分なりに目的をもって取り組み、楽しさや、できるようになったうれしさを感じられるようにしていく。 ・②<u>リレーの勝敗が分かるようにアンカーたすき、ゴールテープを用意しておく。</u> ・リレーでは、繰り返し走る中で、力いっぱい走り、気持ちよさが感じられるようにする。 ・好きな遊びの中で、誰でも参加できるよう、③<u>ジャンケンでのチーム分けやルールなどを遊びながら共通理解していくようにする。</u>

以下は、< 週案 > に基づき実践したある日の幼児の姿の記録である。

< 記録 >

朝からリレーに参加する幼児が多い。チーム分けはジャンケンで行うが、その意識の薄い幼児は二度、ジャンケンしてしまったり、ジャンケンしないで並んでしまったりしている。

走ること、だんだんと速くなってきていることがうれしいようで、エンドレスで走る。

A児は、ぐっと走り方が変わってきた。B児は、自分がバトンをもらったときに前を走っていると「抜かした」と思っているらしく、誇らしげに報告してくれた。

④C児とD児は、ゴールテープを持っているが、庭の中央を二人でぐるぐると回って、最後にはゴールテープは置き去りになっていた。

差が開き過ぎたとき、「どっちが勝っているの?」という言葉が何度か聞かれた。勝ち負けを意識するようになり、友達と競い合って走ることが楽しくなっている。

⑤相手チームとの人数が全然違っていてもゲームが続いており、人数を合わせようという気持ちはないようだ。アンカーたすきも「やってみよう」という思いで走り終わった子が近くにいた友達に渡し、誰がアンカーで走っているのかも分からなくなってしまう。(後略)

< 教師の省察 >

教師は、リレーの様子(参加する幼児は多いのに、リレーが成立しない姿)を振り返る中で、教師自身の気持ちとして、運動会を控えていることから、リレー遊びをなんとか運動会の競技につなげようとばかり思っていることに気付いた。

以下は、< 記録 >における幼児の姿から、改めて把握した幼児の実態の一部である。

< 改めて把握した幼児の実態 >

- ・走る楽しさを感じている。
- ・友達の動きを感じながら、自分も動こうとしている。
- ・友達と競い合う雰囲気を感じて動こうとするが、リレーを意識していない。

- (1) < 記録 > の下線部④及び⑤から、今後の指導の見直しを図る上でポイントとなる幼児の姿が読み取れる。幼児は、リレーをどのように認識しているのか記述しなさい。
- (2) (1)で記述したリレーへの認識、< 教師の省察 > 及び< 改めて把握した幼児の実態 > を踏まえ、今、幼児に経験してほしいことを二つ挙げなさい。
- (3) (2)で挙げた幼児に経験してほしいことを実現するには、< 週案 > の下線部①を、どのように改善するとよいか記述しなさい。
- (4) (3)で記述したねらいを達成するためには、< 週案 > の下線部②及び③について、それぞれどのように改善するとよいか記述しなさい。